

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村米川		
所在地	山口県下松市下谷字砂の本179		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町受理日	令和 2年 2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、ダイバーショナルセラピーの視点から「老いることは楽しむこと」「朝起きる目的をつくる」の理論の基に支援をさせて頂いています。また、米川ならではの地域との暖かい交流や、個人個人の楽しみや生きがいを見出せる生活を提供できることを目標としております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が、地域の清掃活動や廃品回収、市の祭やウォーキング大会、認知症見守り声かけ訓練等に参加されたり、事業所の秋祭りなどに地域の人や小中学校からの参加があるなど、自治会の一員として地域と一体となって活動を行っておられる他、利用者もどんど焼きやサマージャンボリー、地藏尊祭り、小学校での地区民合同運動会、発表会、参観日などに参加して地域の人と交流しておられます。小学校や郵便局には、利用者の作品や事業所だよりを掲示する「のんびり村コーナー」が常設され、近隣の人には利用者の散歩道を、歩きやすく、花を楽しめるように整備していただき、季節の花を分けてもらい会話を交わしておられるなど、関わりを深め垣根のない交流をされています。職員は「利用者様発言ノート」等を活用され、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、楽しみごとや個別の外支援助につなげておられます。記録を活用して幅広い検討を行っておられ、身体拘束禁止、高齢者虐待防止に意識的に取り組まれるなど、介護力向上に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に楽しい生活」という理念の基、常日頃から地域との関わりを大切にし、管理者と職員とで話し合い利用者様が楽しく暮らせるようサービスに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して全職員で共有している。管理者と職員は話し合い、事業所や利用者が地域の一員として日常的に交流するよう、理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の寄り合い、行事、清掃作業にも参加。地域の方たちとも日常的に交流している。	拠点施設が自治会に加入し、管理者が総会に出席している。自治会の年間行事に、事業所の行事が組み込まれている。職員は、3か月毎の地域の清掃作業や公民館の大掃除、廃品回収に参加している他、市の花と緑の祭典や水道局まつり、ウォーキング大会に地区のボランティアとして参加している。地区の「ささえあい隊」のメンバーとして、2ヶ月に1回程度集まって、社会福祉協議会が主催している認知症見守り声かけ訓練について検討している。利用者は、地域のどんど焼きやサマージャンボリー、地藏尊祭り、小学校の行事(地区民合同運動会、発表会、参観日など)に出かけて交流している。移動図書館を利用している。郵便局や小学校に、のんびり村の常設コーナーを設けて、事業所だよりや利用者の作品を展示している。事業所主催の秋祭りには、地域の人がフライドポテト、唐揚げ、焼きそば、焼き芋等の出店をしたり、小中学校のよさこい踊りもあり、利用者や家族、地域の人と一緒に楽しんでいる。ボランティア(散歩、お話の会、将棋、茶道、紙芝居、バルーンアート、法話、歌、楽器演奏など)の来訪や、大学の実習生を受け入れている。小学生から卒業時に寄せ書きを受けている。利用者は地域の人から整備してもらった散歩道を、花を楽しみながら散歩して会話をしたり、季節の花や野菜の差入れを受けるなど、日常的に交流している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地域の方の話を聞き、気軽に相談に乗ることが出来る環境を作っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は月1のGH会議や主任とケアマネとの3者会議、朝や日中の申し送り時に自己評価をケアの振り返りと捉え利用者との関わりを見つめ直す機会として具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、管理者が職員に評価の意義について説明し、評価のための書類を全職員に配布して、職員が利用者の個別記録から項目に当てはまる箇所をチェックして、記入したものを管理者がまとめている。職員は、記録や利用者が楽しく過ごすための個別支援の大切さなどの気づきを得ているが、全職員が評価の意義を理解しているとはいえない。外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、改善に取り組んでいるが、評価の取り組みが十分に活かされているとはいえない。	・全職員の評価の意義の理解 ・評価を活かす取り組みの工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では毎回多数の委員さんに参加して頂き、意見や質問も多く情報交換の場にもなっており、委員さんに自社の研修にも参加していただく機会を得ている。	会議は、拠点施設と合同で2ヶ月に1回開催し、事業所の利用状況や利用者の日常生活の状況、行事予定、研修報告、身体拘束禁止委員会の報告、外部評価結果等について説明し、意見交換をしている。メンバーの防災アドバイザーから、緊急時の対応について助言を得て勉強会を開催したり、地域行事参加の情報交換をしているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	米川地区ささえあい隊や運営推進会議、その他市が開催する研修にも参加し、直接市役所に出向いたり、電話やメールにて情報交換するなどして協力関係を築くようにしている。	市担当者とは、運営推進会議出席時の他、管理者が直接出向いて事業所の運営について相談したり、メールや電話でも情報交換を行い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議出席時に相談し、情報交換をして連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内にて身体拘束対策委員会を発足、年二回会議と「高齢者虐待防止・身体拘束マニュアル」を用いた毎年の社内研修、各施設にて身体拘束禁止委員会を3ヶ月に1回開催、その都度報告を運営推進会議にて行っている。	月に1回の三者会議(管理者、主任、計画作成担当者)、2ヶ月に1回の身体拘束禁止委員会の他、外部研修や法人研修、内部研修などで学び、全職員が理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて管理者が指導し、その都度注意したり、気づいたところは職員間で声をかけあうなどして、不適切な対応がないよう気をつけている。玄関やエレベータは施錠をしないで、外出したい利用者とは職員が一緒に買い物や散歩に出かけ、気分転換を図っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のマニュアルを基に定期的に研修を社内外でしており、職員にもストレスのたまらない環境づくりを心がけており、管理者が職員に話を聴く等している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援としてできることは声掛けし見守りで対応している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険の改定や契約の変更があればその都度文書にて報告し、理解や納得が得られるまで説明し対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの苦情や要望を聞き、すぐに現場で話し合い、運営に反映させ、運営推進会議の場で報告している。	契約時に苦情や相談の受付体制、処理手続きについて家族に説明している。家族の面会時や運営推進会議出席時、行事開催(秋祭り、クリスマス会、誕生日会)時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。利用者を担当している職員が事業所だよりで利用者の近況報告を送っている。出た意見や要望は、申し送りノートに記録して職員間で共有し、月1回のグループホーム会議で話し合っている。家族から介護用品の購入に関する手助けの要望があり対応しているなど、サービス向上に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のGH会議や管理者・主任・ケアマネの3者、会議、そのほか意見や相談がある場合にはその都度職員に意見を求めている。	月1回のグループホーム会議、申し送り時、職員の振り返りシートを基にした個人面談(年2回)時、法人の安全委員会、省エネ委員会、身体拘束禁止委員会、年1回の業務改善発表会等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。住居設備の補修や職員と利用者が一緒に参加するバイキングランチの実施、利用者様発言ノート(利用者の言動や様子を記入し、対応できそうなところにマーカーで印を付け、管理者と職員のケアに関する意見交換を記入する)の設置とケアへの反映等、出た意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の実現に向けてプロジェクトを起し、個人面談は年2回行い、賞与は査定制で職員の人材の適材適所や希望に沿った働く環境を整える等努力をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談時に管理者と職員で話しをしアクションプラン等を決め、個人研修も社内外で積極的に取り組みスキルアップを求め実践に向け努力している。	外部研修は、職員に情報を伝え、事業所内に設置したファイルで常時閲覧できるようにしている。希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供している。今年は介護労働安定センター主催の研修に年8回参加し、月1回のグループホーム会議で復命報告をして、資料を閲覧して共有している。法人研修は月1回、接遇、認知症、身体拘束、高齢者虐待、介護技術等について実施している。内部研修は、他拠点施設から講師を招聘し、月1回開催している。新人は内部研修で認知症、感染症などについて学んでいる他、日常業務の中で先輩職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内外でイベントや研修、会議(GH協議会他)を通じ情報交換等交流が行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と最初に個別に話をし、要望に少しでも近づけるよう支援をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設をよく見て頂き、その際困りごとや要望を伺っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談しながら、必要な支援の対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯干し、洗濯たたみ等職員と協力して行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご家族と話す時間を作り、連携が取れるよう努めている。可能であれば病院受診等に協力してもらっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントシートや本人やご家族からの聞き取りで馴染みの人や場所への外出等支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、知人の来訪がある他、手紙や年賀状での交流などの支援をしている。個別支援の外出(生まれ育ったところ、子どものころ通った小学校、昔よく通っていたレストランや商店、イルミネーション見物など)の他、家族の協力を得ての外出、外出、一時帰宅、法事や葬式への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のその時の状態や利用者様同士の関係性を考慮し、管理者・職員で話し合い一人ひとりが孤立せず支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性をずっと大切にしており、ご家族の相談にのれるような関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言ノートを作り利用者様一人ひとりの思いを全職員で把握し、管理者・職員で話し合い実現に向けて検討している。	入居時のフェースシートやダイバージョナルセラピーに基づいた「好きなことアセスメントシート」を活用している他、日々の関わりの中で利用者の行動や表情、思いや言葉を「利用者様発言ノート」に記載して、思いや意向の把握に努めている。利用者の「お花見に行きたい。」「おはぎが食べたい」「そうめん流しをしたい」という希望を受け入れて支援に取り組んでいる。職員同士もノートで意見交換をしながら、困難な場合は観察したことを発言ノートに記入し、カンファレンス等で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや本人、ご家族からの聞き取りを利用して把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日頃からの様子観察、変化を全職員が記録や申し送りで把握し、医療との連携を図っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者、担当職員を中心に医療関係者等の意見も参考に話し合い、ご家族や本人の要望や現状に即した介護計画を作成。その都度見直している。	管理者や計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心にカンファレンスを開催し、利用者や家族の意向、主治医や訪問看護師、薬剤師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎の中間評価を経て6か月毎に見直しをしている。利用者の状態の変化や要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや会議、本人との会話、様々な記録等から現状に即した介護計画を実践するため、見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日レクや本人希望の外出・買い物支援等様々なサービスに努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便局や小学校に展示コーナーを設けたり、小学校の行事、地域の祭りや行事にも積極的に参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の希望を大切に、主治医や薬剤師との連携の基、受診介助等支援している。	利用者や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。週1回、歯科の訪問診療があり、その他の科の受診は、家族の協力を得て、必要に応じて事業所が支援している。病院ごとに連携ノートを作成し、受診時に情報を提供している。受診結果は、面会時や電話で家族に報告している。職員間では医療ノート、薬情報、介護記録に記録して申し送り等で情報を共有している。訪問診療と連携して月2回訪問看護師が来訪し、普段の健康管理や状態の変化に応じた支援をしている。夜間や緊急時には管理者に連絡し、かかりつけ医と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時職員が付き添い介護記録を用い日頃の様子や体調の変化を報告している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者との関係づくりは努めているが、利用者様が早期に退院できるよう病院に出向き情報交換や相談の時間を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに向けて研修をしご家族や医療関係者、職員等チームで連携し支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」や「看取りに関する指針」に基づいて、事業所のできる対応について家族に説明し、確認書を交わしている。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設等と協力してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年4回の安全委員会にて事例を報告・検討し現場での事故防止に努めている。GH会議でもリスク管理について話し合い対応を皆で検討している。	事例が生じた場合は、その日の出勤者で話し合い、「事故、軽微、ヒヤリハット報告書」に記録して管理者に報告し、翌朝の申し送りで報告して、職員間で共有している。3か月に1回の法人の安全委員会で発生状況や今後の対応を話し合うと共に、月1回のグループホーム会議で再発防止策や対策について話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。年2回「緊急時の対応」について外部研修を受講し、復命伝達をするなどして共有している。看護師を講師に法人研修を年1回行い、内部研修で「ポジショニング(体位交換)」「スライディングボードの使用法」「ノーリフト」について看護師より学んでいる。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害避難訓練、消防避難訓練を定期的に行い指導を受けている。福祉避難所としての登録をし協力体制を築いている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した火災時の避難訓練や消火訓練、通報訓練、避難経路の確認などを、消防設備業者や地域の人の参加を得て実施している。運営推進会議メンバーの防災アドバイザーの助言を得て、年1回土砂災害に対する避難訓練を実施している。管理者が市の土砂災害全国防災訓練に参加している。県の防災担当者が来訪し、利用者と一緒に「土砂災害に関する避難確保計画」について学んでいる。災害時の緊急連絡網に、管理者や職員の他、公民館や駐在所、防災アドバイザーなど運営推進会議の地域メンバーが入っている。職員が災害関連情報を随時得られる体制を整えて情報を共有している。法人他施設との協力体制がある。地域の人からの要望で、市と福祉避難所の協定を結び、水や米、缶詰、カップ麺、カセットコンロ、ガスボンベ、電池などを備蓄しているなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は社内外で接遇や認知症、高齢者虐待研修を受け利用者様の尊厳を傷つけない言葉かけをするよう指導している。職員の気になる言動には管理者が注意している。	職員は、マニュアルに基づいた接遇や認知症についての研修を受けて理解し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、グループホーム会議や三者会議などで職員間で話し合っている他、管理者が指導している。職員は守秘義務について理解し、個人情報の取り扱いについて注意して遵守に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員に思いを伝えやすいよう話をする機会を作り、管理者・職員とで話し合い実現できるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に居室に戻ったり、行き来したりして過ごしてられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髭剃りの声掛けや外出の際のオシャレやコーディネートを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食べたいものを聞いたり(アンケート)、季節の行事食、月2回のお楽しみメニューや地域の特産品(ふぐや豆腐)を出したり食事が楽しみなような工夫をしている。	食事は、朝夕食は法人の配食を、昼食は拠点の厨房で調理したものを利用している。月1回程度、地域の人や家族からの差し入れの野菜などや移動販売で買い物した食材などを使って、利用者の希望を取り入れた献立で、事業所で調理をしている。利用者は、材料の下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。昼食は利用者と職員が一緒にテーブルで食べている。利用者の希望や季節に合わせて、拠点事業所の利用者と一緒におやつづくり(たこ焼き、おはぎ、桜餅、ホットケーキ、チョコレートフォンデュ、かき氷など)を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭り寿司、そうめん流し、クリスマス会、忘年会など)や、月2回のお楽しみ食(ベランダで昼食を食べる、弁当を持参して花見や紅葉狩り、ピクニックに出かけるなど)、個別支援時の外食や好きな食べ物の買い物、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や食事量記入表を用いて日々の変化や体調不良を早急に発見したり防いだりできるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方は介助し、できる方には毎食後声掛けをし促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の一覧表を用い、排泄のリズムを掴みトイレ誘導・介助、声掛け支援している。	排泄一覧表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の量や形状を記録し、水分摂取やヨーグルト・バナナ・オリゴ糖を毎朝食に摂取する等工夫している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しんで頂けるよう本人の意思や体調によってシャワー浴にしたり日にちを変えたり調整している。	日曜日以外の週2回、14時から15時30分の間、入浴できるよう支援をしている。利用者の体調に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、部分浴などの対応をしている。入浴したくない人には無理強いをしないで、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をしている。家族からの差し入れのゆずを使つてのゆず湯、菖蒲湯、バラ、カーネーションを浮かべて楽しむなど気分転換を計り、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安があつて眠れない方にはホールで職員と過ごしたり話をして安心して頂けるようしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルしたものを活用し配薬も職員2名で錠数の確認、ダブルチェックを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートや会話を拾った発言ノート を基に、誕生日レク・個別レクを企画し、行きたい所やしてみたい事、楽しいことを実践、支援している。	節分、ひな祭り、のんびり村秋祭り、クリスマス お楽しみ会、ボランティアの来訪、小学生との 交流、テレビ(時代劇、歌番組、相撲、高校野球) 視聴、新聞や本を読むこと、脳トレ、DVD 視聴、カルタ、トランプ、ぬり絵、貼り絵、ラジ オ体操、健康体操、昼食作り、食事の準備や 片付け、おやつづくり、洗濯物たたみ、掃除 機かけ、エアロバイク、花を活ける、移動図書 館や移動販売の利用など、活躍できる場面 づくりや楽しみごとや気分転換の支援をして いる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝は近所を散歩が日課。あとは本人希望や施設の様々な季節レク・行事レクによって外出支援している。	初詣、小学校での行事(どんど焼き、地区民合同運動会、やまのこ発表会、参観日、卒業式、地域ふれあい集会など)、地藏尊まつり、サマージャンボリー(花火)、四季の花見(山桜、しだれ桜、しば桜、菜の花、バラ、つつじ、アジサイ)、蛍狩り、ピクニック、法人施設のカフェ、買い物、個別支援の外出(生まれ育ったところ、子どもの頃通った小学校、昔よく通っていたレストランや商店、イルミネーション見物など)、移動図書館の利用、郵便局と小学校に常設しているのんびり村コーナーの展示作品を散歩時に直接届ける、近隣の散歩、外気浴、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、法事や葬式への出席など、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「買い物に行っておやつやパンが買いたい」との本人希望にて自分の欲しいものを選び購入してもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔からのお友達に年賀状を書き郵便局に直接持って行って頂く。(職員が声掛け支援)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を活けたり、季節ごとの作品やカレンダーを掲示したり、利用者様が思い思いの場所で居心地よく過ごせるように工夫している。	緑豊かな山々を望むことのできるリビングは、自然光の差し込む明るく、あたたかい室内空間が広がり、利用者が散歩中に地域の人からもらった季節の花々を活けている。テーブルや椅子、ソファ、畳ベンチを配置し、利用者がくつろげる居場所となっている。壁面には利用者のぬり絵や貼り絵、折り紙の作品、カレンダー、絵画、行事の写真、グッドフィーリングシート(ポスター)などを飾っている。室内の温度や明るさ、音を適切に調節し、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる場所づくりの為、ソファや机、ホワイトボードを利用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が本人が使い慣れたものや思い出の物を持ってこれそのまま居室に設置して生活空間をつくっている。	テレビ、タンス、椅子、三段棚、衣装ケース、置時計、本、花鉢、水素水整水器など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、夫の作品(絵画)、本人のぬり絵、貼り絵、折り紙や習字の作品、家族の写真などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族とも相談し理解を得て、手すりや福祉用具等を利用しホール内を出来る限り自立して歩けるよう支援し安全面にも気を遣っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム のんびり村米川

作成日: 令和 2 年 2 月 27 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	全職員が評価の意義の理解をしているとはいえず、取り組みも十分に活かされていない。	全職員が評価の意義を理解し、評価を活かした取り組みが出来るようになる。	毎月1回のグループホーム会議の際に評価の項目を議題にし、全職員から意見を求め(当日出勤でない職員には事前に意見を聴いておく)理解を得るよう意識付けをする。定期的に研修やセミナーをする。	6ヶ月
2	35	全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけていない。	応急手当や初期対応の実践力を全職員が身につける。	外部、内部の研修や訓練、勉強会、セミナーを定期的に行い、全職員が日頃から実践力が身につくように訓練、指導をしていく。わからないことはみんなで解決する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。